２０２０年１１月２５日（水）

老球の細道５７７号

久しぶりのＢリーグディレクター

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

昨シーズンは新型コロナによって途中で試合が中断されたＢリーグ、今シーズンは今のところ無事開催が継続されている。コロナに対する安全管理を異常なくらいに徹底して、今シーズンも第８節を迎えるに至った。

先週末は郡山において西地区のバンビシャス奈良と福島ファイヤーボンズの２連戦が行われた。私が今シーズン初めて担当する試合であった。約１年ぶりの仕事でコロナ対策の色々なマニュアルも加わり、仕事を無事こなせるか不安だったがなんとか乗り切った。

ゲームディレクターの仕事は、間近でゲームを観戦できることが何よりの楽しみである。選手、コーチ、レフリー、TO、運営者と直に接触しながらゲームを観戦できる機会はなかなか経験できない。いつも新しい発見を探しながら仕事をしている。

ゲームを観戦していて、今シーズンの「福島ファイヤーボンズ」は一味違っていた。２試合とも大差の楽勝ゲームだったが、アウトサイドシュートの確率が非常に高く、しかも誰もが打てるし、入る。また、インサイドの外人選手のリバウンド、アタック力のレベルが高く、インサイドとアウトサイドのバランスが非常によく取れたチームに成長していた。

日本人選手にタレントと呼ばれる選手は皆無だが、攻撃力が高く、ディフェンスも皆アグレッシブである。特にディフェンスではファールぎりぎりのプレッシャーディフェンスは、福島県の中学生、高校生も真似しなければならない重要なスキルであろう。

また、ボンズの昨シーズンとは違った印象として、１Ｑのゲームの入り方が完璧だった。特に１試合目は１Ｑ でゲームの勝敗を決定する素晴らしい内容だった。ディフェンスから速攻、チームオフェンスからアウトサイドシュートとチームの狙いとすることがすべてうまくいき集中して入っていた。改めて１Ｑのゲームプランの重要性を再認識させられた。

今回の試合はレフリーにも興味津々だった。なにせクルーチーフ（主審）が県審判長の芳賀聡氏だったからである。会津出身初のＳ級審判員である。彼のＢリーグでの審判はテレビでは何度か見たが、目の前で見るのは今回が初めてであった。コーチから審判への激しいクレームが日常化しているＢリーグのゲームを、芳賀氏がどのように裁くかも注目するところであった。芳賀氏の毅然たる姿勢での適確な判定は、ゲームが荒れることを防ぎ、コーチからの激しいクレームを出す隙も与えなかった。

また TO クルーに元中学校の名将で現在小学校の校長を務めるＩ先生が加わっていた。少しでもバスケットに関わっていたいということで自ら志願したということであった。喜多方ミニバスコーチの佐藤実氏も TO に参加していた。普段忙しい仕事に携わりながら、休日においてＢリーグの TO をするという心意気に頭が下がった。

素晴らしいゲーム内容と、新しい発見、そして頑張っている凄い人たちとの出会いで、先週末も充実した時間を過ごすことができた。バスケットボールは人生のスパイスである。